

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	ゴールド・スタンダードと温暖化緩和における自主的オフセットの役割 The Gold Standard and the role of voluntary offsets in mitigating climate change
主催	Basel Agency for Sustainable Energy (BASE)
日時	2005年12月3日(土)18時～20時
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> • Dr. Matthew Webb (Department of Environment, Food and Rural Affairs, United Kingdom) • Martin Cames • Blaine Mohninger • Paul Lingl (David Suzuki Foundation) • Corinne Boone (CO2e.com) • SouthSouthNorth
傍聴者	約40人(政府関係者やNGOなど)
目的	自主的オフセットに関わる動機について調査するとともにこれらの排出削減効果、持続可能な開発への貢献、投資家への価値をどのように設計するか示す。
発表の概要	<p>Dr. Matthew Webb氏は、オフセット・イニシアチブの意義について以下のようにまとめた。政府主導であること、同等の行動基準が政府、公共両方にあてはまること、普及・啓発、排出緩和のための直接行動であることなどを挙げた。また、同氏は自主的オフセットから得られた成果として、公共の関心度を高めたこと、オフセットプログラムの多くが小規模でCDMセクター範囲外であることが多いと判明したことを挙げた。</p> <p>Martin Cames氏は、FIFAのWorld Cupにおいて実施される環境プログラムについて説明した。温室効果ガス排出、省エネ、廃棄物、水使用、移動手段など様々な面で効果を発揮することが約束されていると説明した。</p> <p>Blaine Mohninger氏は、今回の気候変動会議開催におけるオフセットプログラムの施行により、10,000トンから12,000トンもの排出削減クレジットが発生する規模となったことを説明した。次に、導入された主な技術などの説明を行った。</p> <p>Corinne Boone氏は、形成されつつある自主的排出削減クレジット(VER)取引について説明した。イギリス、北ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアではVER取引はまだ初期段階といえるが、その市場は序所に成長しつつあると説明した。買い手は、持続可能な開発に貢献する社会的にも認知されたプロジェクトの援助ではなく、貿易機会を探している傾向があることを言及した。例として、ジャマイカのVERプロジェクトを紹介した。</p> <p>SouthSouthNorthは南アフリカ・ケープタウン市の都市家庭向け省エネ改善装置の普及プロジェクトを紹介した。プロジェクト開発の経験をもとに、同氏はCDMは地球規模の便益をもたらさないが、VERプロジェクトは地球規模での便益をもた</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	らすことができると主張した。また、ゴールド・スタンダードも地球規模の便益をもたらすと主張した。
資料	なし

文責：弥富 圭介（財団法人地球環境戦略研究機関）